

The 11th Japanese Drosophila Research Conference

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39648

『学会開催報告』

第11回日本ショウジョウバエ研究会 (JDRC11)

The 11th Japanese Drosophila Research Conference

脳・肝インターフェースメディシン研究センター
佐藤 純

ショウジョウバエは基礎医学・基礎生物学において非常に有用なモデル動物で、世界中の研究者に用いられています。国内におけるショウジョウバエ研究も非常に活発で、国際的に見ても非常にレベルの高いものになっています。ショウジョウバエ研究会 (JDRC) は隔年で開催され、日本国内のショウジョウバエ研究者の交流を促進し、最新の研究成果を発表する場です。全国規模の国内学会で規模は大きくないですが、国際学会では見られないような未公表でユニーク、かつレベルの高い発表が多く、非常に有意義な研究会となっています。

今回の第11回日本ショウジョウバエ研究会 (JDRC11) は、はじめて金沢にて開催されました。6月4～6日の3日間、金沢歌劇座に約190名の参加者が集まり、50題の口頭発表と80題のポスター発表が繰り広げられました。初日は日本のショウジョウバエコミュニティの「顔」と言える、国立遺伝学研究所の広海健先生に基調講演をして頂きました。“Crossing the border”というタイトルで、ご自身の研究内容と、研究人生のあり方をオーバーラップさせた印象深い講演で幕を開けました。基調講演以外の発表は全て一般発表で、全ての参加者が同じ発表を聞くというシンプルなスタイルになっています。基本的に英語での発表が必須となっていますが、学生からも積極的に質疑応答が飛び交い、極めて活気のある研究会であったと言えるでしょう。これほど活気のある学会は他になかなか無いのではないのでしょうか。発表内容は最新のゲノム編集技術、行動進化の神経基盤、力学による形態形成メカニズム、数理生物学、疾患モデルの解析まで多岐に渡りますが、研究内容のレベルが高いことはもちろん、ここでしか見られないようなユニーク(マニアック?)な発表を聞くことができるのが特徴です。非常にタイトなスケジュールでしたが、最後のセッションまで大盛況で、どっぷりとサイエンスに浸かることのできる3日間だったと思います。

JDRCの重要な要素のひとつとして森脇大五郎賞が挙げられます。毎回、優秀な発表をした若手研究者に送られる賞です。今回は15名の審査委員の投票によって厳正に審査され、学生・ポスドクによる発表の中から、4名の方が受賞しました。レベルの高い発表の中で特に優秀な発表に送られる賞ですので、受賞された方にとっては今後の励みになるでしょうし、また他の若手研究者にとって良い目標となっています。

今回はサイエンス以外の点にも力を入れました。2日目の夜にエクセルホテル東急にて懇親会を開催しましたが、全参加者の9割以上の方々に参加して頂き、石川県の料理とお酒を楽しんで頂きました。さらに金沢市の伝統芸能補助を利用し、6人の芸妓さんをお呼びして長唄を披露して頂きました。外国人の参加者だけでなく、日本人の参加者も金沢ははじめてという方が多かったの

で、非常に良い機会だったのではないかと思います。

このような国内学会を開催することの意義は、もちろん研究成果を発表したり他の発表から情報を得ることも重要だと思いますが、若手研究者がネットワークを作る場を提供するという点も非常に重要です。私も大学院に入って修士課程1年の時にはじめて参加したのがこの学会でしたが、会全体の雰囲気がフランクなので、同じ世代の研究者との横のつながりを作るために非常に良い機会でした。その時に形成された人と人とのつながりは今でも続いていますし、その内の何名かは現在国内外において独立した研究室を運営しています。今後ともそのような機会を若手研究者に提供し続けるということが日本のサイエンスの持続的な発展にとってきわめて重要で、これはショウジョウバエコミュニティ以外の全てのサイエンスコミュニティについても言えることでしょう。今回のJDRC 11でも学生どうしが自発的に横のつながりを作っている様子が見受けられたので、彼らの将来が楽しみです。

最後になりますが、十全医学会をはじめ、石川県・金沢市・金沢コンベンションビューローのサポートにより充実した研究会を開催することができました。今回は民間のスポンサーを全く付けませんでしたが、これまでと全く遜色ない素晴らしい会にできたと思います。この場を借りて御礼申し上げます。

